

中村元先生のご逝去

インド哲学、仏教学、比較思想研究の世界的権威、東京大学名誉教授で東方学院院长の中村元先生が、十月十日、急性腎不全のため、東京都杉並区のご自宅で、ご逝去されました。八十六歳でした。

中村先生は善光寺留学僧育英会の名譽顧問をお務め戴き、留学僧育英会に対する深い理解と温かい眼差を常に注いで下さいました。育英生の論文集には玉稿を賜り、その将来に大きな期待を寄せられていることがひしひしと伝わって参りました。善光寺は掛け替えのない大切な先生を亡くし、大きな悲しみで一杯です。心より哀悼の詞を申し上げます。

中村先生は大正元年十一月二十八日、鳥根県松江市生まれ。旧制一高を経て東京帝国大学印度哲学・梵文学科へ進学。昭和十一年卒業。同大助教授を経て二十九年教授に就任、四十八年定年退官。スタンフォード、ハーバード大学等の客員教授も歴任。比較思想学会初代会長、日印文化協会会長を務められました。

昭和三十二年、『初期ヴェーダ哲学史』（全四巻）で学士院恩賜賞、五十年に『仏教語大辞典』で仏教伝道文化賞を受賞。四十九年紫綬褒章、五十二年文化勲章、五十九年勲一等瑞宝章を受賞されています。東大退官前の四十五年には、東洋思想の研究とその普及のため財団法人東方研究会を設立し、理事長に就任。退官後は東方学院を開講し、自ら院長となって一般や後進の指導に当たって来られました。著書多数。